

911.3
1

以  
子  
集

全



岩井子守

是乃一庵年月祖師の名に推かるる也  
その世の世に於ては其の世に於ては其の世に於ては  
其の世に於ては其の世に於ては其の世に於ては  
其の世に於ては其の世に於ては其の世に於ては  
其の世に於ては其の世に於ては其の世に於ては  
其の世に於ては其の世に於ては其の世に於ては  
其の世に於ては其の世に於ては其の世に於ては  
其の世に於ては其の世に於ては其の世に於ては









そのゆくは しのびのこころに  
しづかに ながるる 月影の  
あかり 照らす 花の  
うらみ しのび かな  
あはれ かな かな かな  
あはれ かな かな かな  
あはれ かな かな かな  
あはれ かな かな かな  
あはれ かな かな かな  
あはれ かな かな かな  
あはれ かな かな かな  
あはれ かな かな かな

嘉永癸丑冬

新橋被褥七十三段

柳屋

以心子集

咲をまき 惜しき かり 家 橋 京 梅通  
常や おり 初音 下市 地 弓 音  
草葉 や 花 つり 海 音 新 以 心 音  
明 かり かな かな かな かな かな かな  
うき かな や 野 風 山 を かな かな かな  
新 かな かな かな かな かな かな かな かな  
石 外



春くさく雲や明ゆく峰つと

大坂 素屋

雲うけし一橋や初さる

鼎左

市に音お梅をす下なる

松崎

城の夢を安うくさる舞うさ

白崎

船に友ふ中一舟さ起赤の如

林曹

新と浪のちるさくや垣のうめ

其山

暮しかり灯のくさる雪のふ

世年

新うさる雨降土の布さ裁た

江戸 一具

志くさくや起のふい多変にさふお

由誓

すくさく考さる道一藤う如

西馬

砂魚釣や兵と船とのえさうさ

為山

法性した月代摺ふ耐るうな

為裁

燈くさくさくやお梅もさるお月さ

祖向

河ささるさるさるさる石落の花

為香

春さくさくや梅さくさく知もさる

丁知

さくさくお柳も梅もさるさる

明香



光河を渡る舟の舟中御村雨 抱像

おきり紙す河を渡る舟の舟中御村雨 遠洲

河を渡る舟の舟中御村雨 菊土

舟を渡る舟の舟中御村雨 氷壺

月の光を渡る舟の舟中御村雨 運流

舟を渡る舟の舟中御村雨 卓郎

舟を渡る舟の舟中御村雨 未足

舟を渡る舟の舟中御村雨 白灰

初之田やあさり静かな田の春 懐古

舟を渡る舟の舟中御村雨 足舟

瓜小屋の側まき 俵に渡る舟 夷則

舟を渡る舟の舟中御村雨 春卷

舟を渡る舟の舟中御村雨 きく雄

舟を渡る舟の舟中御村雨 万里

舟を渡る舟の舟中御村雨 大系

舟を渡る舟の舟中御村雨 袋中



とくも〜も嬉〜 秋福のり〜 月お

根千 雲霞〜〜〜 光〜〜〜 詠久

作の子や 雨に月あり 十五日 吟

甲子 明けも 船のけ〜〜〜 雪の上 半湖

老〜〜〜 木〜〜〜 北松

明〜〜〜 秋の涼〜〜〜 山子

梅〜〜〜 秋の〜〜〜 みま

川 船お 只お〜〜〜 秋北風 好甫

うけと〜〜 互に田つ 清水 庭裡

文月や 兼にう〜〜 病も〜〜 赤山

ま〜〜 馬も〜〜 花〜〜 大抵

空草や 雨に庭を 物た〜〜 外夷

踏〜〜 程あり 寸草や 苔の花 蓮交

稲つ〜〜 草あり〜〜 野色〜〜 芦月

何を 秋の物〜〜 鳴れ〜〜 卜早

〜〜 ありに 哀 秋〜〜 鳴り〜〜 〇つ



川流や人さつちりく飛りこ

古峰

うき嶺の山路や登り引板の音

居山

よりつくり日に野ふ海きく鳴うつ

尾村

納豆汁ゆいふ柿柿白ひくぬ

探管

名月や旗しきになくきりこ

以甫

腰のせをぬくも河にぬ給いな

松葉

名につけを申し起るや痒るる

柳毛

軒先の柳やけりくし海にきり

探布

秋もはやおきたる長の扇の物

若女

糸よりせぬ旅や時あり可なり

ひき去

日は西に志くも雪のやわらき

みつる

障子より地を流るや茶の味

徳崎

そよぐ度りるや日のさす門

美交

ゆく秋や立ちまゝ家に物忘れ

呉溪

やんわりうの糸若うなまる九月が

梶支

風吹くもぬれ幣や梅のまか

<sup>左江戸</sup> 桑村



ちり秋や病うらのよに樹のうち 肥前 卯て女

元日も空しき屏風のうけお空の如 肥前 悠く

元日や入りんてさへ船のさる 長崎 二石

阿しき屏風のうけお空の如 肥后 十糸

際な多し何ぞ持しき 日向 純岳

青柳やさう漏れよく 大隅 季風

所のあはれぬや 薩戸 言翁

うらつらと道や 筑前 雨堂

蕨入や女も 筑后 松代女

盛砂や 豊前 花向

遠き舟の灯 豊后 勢出

速く 豊後 清水

新し おろ 曝堂

秀新 周防 閑堂

清隆 長門 長嶽

雪 長門 雪丸



二日月なきは渡りて舟場うれ

石見 生風

明くおの暮りてなれば柳のし

女鳥 甘古

出うけりてや明くあや梅の志

梅思

冬あけぬりもなれくや枯尾を家

伯前 北身

多しあななく持たぬさきり初は子

伯中 香雨

将一もは夢に露のりるの鳥

伯后 雪塙

蒼魚のせきとなく巨しく川うか

伯著 杜陵

麦粒おいとつくと月さきち参り

真作 真屑

水のうらみなりおぬるりく子

播磨 可大

赤之濁りあうとあうとくつと

丹波 湊崎

一志きり庭木もなれは春の雲

後泊 半谷

一しきりてま木も月を待たぬ

伊予 塔石

涼風や空りひくき海の色

伯波 茶園女

夏山の影畫に入るるう柳

伯波 茶園

うん梅や雪うもなれ遠とわら

風棲

まのくひやうつぬ甲や木瓜の節

踏花女



筑さうか指くはるひやまもの  
清順

風さう舞吹海ま出おやまうく  
土佐 元史

くまのりかろ花のうつおまね此  
雲外

毒うやとくま心とおちもあ  
讃岐 天来

苗代や耐能のやうおあかりん  
河内 福海

日のひーあまあうくまきい  
大和 木谷

手まうくもろあまあまの遠うれ  
紀伊 関那

編つまうり葉の結ひまみん  
色に 碓山

卯の花や朽せくりま垣のそと  
伊賀 善仙

神さまうくおあまあまね袷う那  
伊賀 崔史

蒼ちうき影のさすをうり女即そ  
蕙雨

うまうくまに海まうくあま梅まま来い  
志 不遷

あまのり舞う針まをる柳う那  
元 雨 后

卯月のあまうくあまままままうか  
荻山

汐もな記まあうりまのやまのあ  
月底

節り鐘うくまあまうりままうり  
三河 蓮 宇



いびきし人々もあつや梅もさか  
塞る

空と花のあまうけおろく煙る如  
鳥谷 甚に

矢ひきりし秋れきり下や交  
杜若

風もく海もくお日あま  
迷山 語阿

轉や栢杞垣しり照すこ  
盛元

五七日ちりしありあり沙の柳  
松宇 伊豆

山は信や雪の苗代も家おろし  
之宇 相模

高と多と儀つよ歌く花の春  
護氏 武蔵

逢蓮や華より雨降る  
龜来

河の空あふ人れあふんや春の種  
甫々

と秋の秋鐘のさやもおろるさうね  
潮月

たきうれや花の香もも松のおく  
栢多

鳥羽玉の夜もあふりし月の秋  
天由

そらうり入おろるく誰来りれ  
勇賀

さ比のたふい崩きやうあり雲れ降  
仲山

まの鳴るらんた遊びや穠う  
微蕭 若狭



あゝきの雲はけり雪うれ 我お 東林

初阿き結をなへりや雪ひら 加賀 大夢

顔けり外へ遠くお樹の月 能登 九五

明け程をまへりぬる月 我中 夢里

秋のせとさしよるや花うら 信濃 谷古

雨うら落くはるり阿きの 越后 乙良

雲も木もささるまはり 警成

松夜う休をひりき おろ

草木も庭ありさし 茶山

九月お相より 大栗

お生の作より 信乃 武一

雲ぬる菊もさぬ 葛古

うれ女の素ふ 甲斐 松節

夕くさ 竹良

ゆく あお

とれ あお



柳原よりうきき種垣おとしの月

上巻

未集

志つゝなすおとさささう計ておぼし

おぼし

おとさささやあつたにきてこの水おひ

下巻

以見

ぬくさうなやれ中よりまのう

山賢

土踏よりあううあうあうあうれ

右止

湯あわくひ操くそたゆくあう

常陸

友南

抱たよりそやあうあうあう給うぬ

鶴菜

あやりの月あうあうあうあう

や香

暮るるおとささあや木下や

李の女

月ささや樹よりあうあうあうあ

上巻

昇布

松よりあうあうあうあうあう

米室

あうあうあうあうあうあうあう

下巻

其女

あうあうあうあうあうあうあう

青竹

あうあうあうあうあうあうあう

おのれ

清風

あうあうあうあうあうあうあう

陰風

あうあうあうあうあうあうあう

函系



あきれうきふのうきやいぬりり  
大古

初うけおきわぬぬに算えりり  
二丘

のく町をきり送るく町をの  
緑帯

二日月をくくく樹へのりきり  
清岡

まきの吹雪やきまきく日れあき  
二北

清くわうきまきまき福喜子  
豊丘

あけやり毎日くく風おきま  
令香

あきこの地りきま枝のゆりり  
藤鏡

遠くくあきあきあや  
涼花

あき柳や路り人のえゆ  
芦葉

く朝の面おもくけきま牡丹か  
悟清

あけ月風や路りあきあき  
可保

あきおきまきいぬれくまき  
窓古

あきをおうく種くあ風ののりり  
新石

あき梅やあきあき門のまき  
崇啓

あきうきりあきあきあき松栢  
水竹



朝浪の青も志剛うや小松曳 埴原

水深新まゝ新く一頭板う非 匠人

夕晴りりれさうりりり是野原 梅里

松明の河も明く如く耐雨う奈 南雀

新くやあうりと見う海秋の川 友吉

たゞあもあやあもあを平とさき 松橋

お梅の白ひや新の年ありー 哉園

あゝあのをあやあ影さあ月おる新 夢庵



留声子 暮くそ白くそ白のそくそ

宋氏 稜山

背負ふ紫ももまもふあう那

月山

覚悟した外のをやうう折し

風号

赤雪や折ももぬくそ

知鳥 榮澤

暁しき樹子入るぬ暮のを務

奥白川 由人

布を裁取おひりそふう水の色

律源

いささかたはるのまつや船の旗子

三友 紫山

りうりまひわりの喜田れ海し

又鶴

船浪の青も志剛うや小松曳 埴喉

水深流も新しう折う那 邑人

夕晴りりれはうりりる雪原 梅里

松崎の河も明くはく町雨うな 南雀

新雪もやみうりと見は秋の川 友岑

たはもも中申ものそふとまは 松橋

お梅の白はや折のそふり 戲園

ちるをのそふり影さふ月おる新 夢庵



積りきやたらのつゝぬれりけ 風志

船くや清ありももる木の葉 雲尾

見ぬ花よりいんおもるおれ雨 井田

不詳中々道やらむの二三本 岩隈 南渡

いふなり清もさるあさくしや ねる 鬼谷

空よりあさるそり消るやほ志のうま 須加川 高よ女

あさるぬを燈るもよるおや杜宇 清氏

江を交く月減るえり 極うま 松田 英泉

立よむ所の中橋よりりり 平松 東里

おの業もならむとせ話し松の内 福富 大費

望れ花もまもおれや路あく 分字

し高葉や噴やこれ産阿うり 米形 遜阿

深川やあめと起のふ雪なく桂 也明

海棠お名跡と神おふらこの冷 高子 梅月

ほろもやあのかくうつるあのおし 物師 梅来

梅少しのかくやあしきおれ色 風止



手落ひし川揚ぐくく口のすくく

素土

書知や大字くくくくま坐の工ま

榎木 詠歌

あらくくく條の起き川雪融か

大河原 江三

井やきくか麓あふり條の中

のろ田 松集

きくの田くくくくくくくく

千賀岡 任阿

りくきりくくくくくくく

南月

明くくくくくくくくくく

全

遠山の雪融かたりや陽くく

江月

冬の月れぬくくくくく

全

初光もきたるくくくく

仲丹

二三枚落くく月も一葉く

全

夕風の音くくくくく

素江

白くくくくくくく

全

山の月残くく西のかく

浦人

あやのきくくくくく

家遊

入あやのきくくくく

漸人







たふあやまきこくみーな根の苔 湖丹

写う里の船つも歌る昔ら那 魯由

おたしー子ひひく〜せうたの毛 二松

行秋の苗や静〜海邊 寸 板江

笠のうら見やうやまを揚ひたり 石堂 石堂

葉の花の吹を掃め〜かく〜危 菊重

あ〜月ともた〜と〜や秋のま 宗凡

元日やくたり〜何ふせ〜静〜心 巴燕

月なくとも吹さうもあ〜女子の花 静外

葦うりの子か〜歌〜やち即冠者 陸夢

花〜葉のま〜と〜ま〜山さ〜ら〜 氣仙 楚流

うめり枝は調ふ〜と〜葉〜ま〜ら〜 田森

雪れ江り影〜〜と〜葉〜ま〜ら〜 山 陸丁

垣隈にありとも志〜と〜葉〜ま〜ら〜 不老 之 柁

身のま〜く〜と〜ら〜と〜さ〜や梅の花 素葉

人先り口苗えつ針〜と〜小〜と〜ふ〜家 浦谷 魯因



留まじきるの阿りく橋木の芽伸が

佐侶 共陰月

るの阿やまじきるも植さるる

迫 柳 卯啼

舞やまじきる直寸新新踏

迫 柳 卯啼

まじき人のまじきるまじきる

水沢 玉珠

うくまじきるのまじきるまじきる

水沢 北山

梅を中まじきるまじきる

南都 卓堂

あまじきるのまじきるまじきる

菅川

谷屋まじきるまじきる

可 笑

おのまじきるまじきるまじきる

一一二

木植まじきるまじきる

東 枕

燈のまじきるまじきる

松前 旭

明のまじきるまじきる

和 好

新のまじきるまじきる

小 帳

沖のまじきるまじきる

善 波

まじきるまじきる

去 月橋

まじきるまじきる

五 葉



る 芳れ 空に 柳の 志 何 一 興

志 つの さ や 夕 針 暮 露 の 音

楓 さ く や 暮 針 暮 露 の 音

暮 針 暮 露 の 音 何 一 興

船 の 芳 れ 空 に 柳 の 志 何 一 興

暮 針 暮 露 の 音 何 一 興

卯 の 暮 針 暮 露 の 音 何 一 興

初 暮 針 暮 露 の 音 何 一 興

一 興

暮 露 の 音

谷 水

暮 月

露 葉

裡 洞

松 像

暮 露

花 ち り ふ 暮 針 暮 露 の 音

山 菜 花 や 通 針 暮 露 の 音

旅 針 暮 露 の 音 何 一 興

芳 場

江 村

双 娥

阿 針 暮 露 の 音 何 一 興

暮 針 暮 露 の 音 何 一 興

み 針 暮 露 の 音 何 一 興

波 針 暮 露 の 音 何 一 興

新 甫

均 糸

玄 子

波 同



田のうへや節々やふりなふり

体一

猶れ素波芽の風よゆくせり

舎用

あまのなみきりや虫の音

全

やと梅も空の雲に立暁う

一止

端はきりやつきのやみか

宗古

鈴や新湯もくわ拾ひ買

壺あ

摘り人へおふや節々

枚芽

人夢や遊子祿もや都の春

如常

民もに物もあうく唐り

全

夢をくやるもやうに新の春

文人

山ふきお影ひくほの梅の園

金波

をきくやう空と海も梅の花

心海

をのこぬ影もやうやねの春

素雪

り影もくわう春のうらみ

乙子



蒼れ 葦 舟 山 の くも 長 洋

目 の 前 の 上 に 移 り や 墟 杖 五 雲

老 多 小 甲 一 函 舟 や 雲 山 び き 雲 漢

大 一 一 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

臨 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 一 知

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 自 矢

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 南 強

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 板 板

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 祖 表

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 樵 菜

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 鳥 人



たそがけの風も静かにや夕暮

後高

舟場より来る賣仕新しき人

泉溪

枝より下流の白く澄るる水

碧函

紫陽草や水の明るる舟の中

素席

ぎんねの帰木も暑の晴るる

梧郎

鬼灯や藁のかね枝も一りき

毒枝

こゝろのなるといふよも梅ざら

南浦

あけのつゆもいふ途より月をたづ

風聲

次ねりわたりしりしし 柳の影

公木

たや散らするる梅の下からさ

菟足

あきの人と委写うそみあひり

彫書

融るる紙振るるるるるるるる

市曉

萩をこぼれよあけのやや草

可交

清くも木影葉の露や塔のなと

朱山

水干のきんつばを白鷺とあけさ

龜江

一松



うきつらく中へきつらふ家へれ 柳英

まきさのやまつくにつく細のまら 香新

まねふ木の陽まを林の那 素久

沖をきく片側所や梅のまな 春吟

逐付くまぬく橋の柳う那 二有

杆まはく戸へ屋まのまら 龍六

まらりのまらま君や舟中 松月

まらくやまらま流るるまら 川権

くはくは彩おそくあはれ塚 吾仙

梅のまや小車り一帯のうけ 南末

乃のまや根ち引くまはれま 巨系

りれまらま屋のぬらまや梅のまら 湖立

まらこのまら彩まら月の柳う那 標彩

暮阿のま 標彩りかまにまらまら 珠良

瀬のまらり彩のまらまらまら 通仙



樹香

庭月

吳遠

山如

梅雪

希之

巾二

白水

此の香は樹香の香なり

梅の香は庭月の香なり

五言の香は吳遠の香なり

松の香は山如の香なり

引の香は梅雪の香なり

陽の香は希之の香なり

言の香は巾二の香なり

人の香は白水の香なり

此の香は樹香の香なり  
 梅の香は庭月の香なり  
 五言の香は吳遠の香なり  
 松の香は山如の香なり  
 引の香は梅雪の香なり  
 陽の香は希之の香なり  
 言の香は巾二の香なり  
 人の香は白水の香なり



枝川へおまゝく〜とある〜おまゝのあ  
子賢女

新うほや明りのつゝ〜おまゝのあ  
お新め

名月やおふつ〜おまゝのあ  
さか女

春新〜信のつぎ〜福喜のあ  
周め

雛柳〜おまゝのあ〜庭うほ  
三車女

〜おまゝ〜吉橋れお新め

ほ〜おまゝ〜お新め

お〜おまゝ〜中悲阿〜おまゝのあ  
禾山

阿〜おまゝ〜お新め多〜おまゝのあ

〜おまゝ〜お新め

七十〜お新めお新め〜おまゝのあ

お代を〜おまゝのあ松の〜お新め  
せり子

おまゝのあお新め七十

おまゝのあお新め

お新めお新めお新めお新めお新め

お新めお新めお新めお新めお新め

始翁



年々老るる一はらりたり一記のこま  
くく丸ゆく出ぬらわんか時をたすく  
形ふら代のこゑをききしるまはた河ほと  
男外らわらねあそぶ人との心解  
阿うく月夜にうく控さまひりり  
し一歯空をく白れ茶数くうねてあし古  
積の貯ふこゝあめくねを定めたるこゝなら  
く一りね母一もく糸のこゑをききしる

我年 亥う計の

うき一記を月日一那

未月

七夕や夢くき一記人なり新

未月

柝のこゑはこゝろにあらふ

舎用

試りきふ小鷹の考をゆ一く

月

ちり結多殿はくききききり

用

あつたよ志をり一途の隣回士

月

阿うく計をまのこゑくききき

用



きりぎりし 珠を病子のきりぎりし

後揚屋のうらさ 廣うは

知己の門をわするうら ぬりぬけ

矢とまきとはあいなまのうら 汐

猿さびらわらうら ます眼の療治

すくなくくくく けき耕おちん

君の月一枚をのきや 法よき

大感あき 巫女町のちく

月

用

月

用

月

用

月

用

ちくくくく ちくくく ちくくく

病阿しり かつ目利ぬくゆき

ちくくくく 下枝のちくく ちくく

霜のりり ちくく ちくく

維子おのち 度と義引りちり

ちくく ちくく ちくく

埴居ちく ちく ちく

月とちく ちく ちく

月

用

月

用

全

月

用

月



再臨 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯

子 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯

子 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯

何 とも 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯 辰 卯

鏡 書 ち 移 れ や う ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

白 ひ る の め く 架 け の 子 福

晴 け 月 子 吟 念 庵 を 志 ち り 阿 け

い 海 鳥 が ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

用

月

用

月

用

月

用

月

こ ち へ 吟 念 庵 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ほ の ち ち 集 ち ち 甲 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

巡 従 ち ち ち ち 木 枕 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

志 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

練 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

用

月

用

月

用

月



心なき雪紙たのきや不<sup>く</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>し</sup> 一具

日くく茶あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>末<sup>は</sup>三日月 未月

搦手の鏡と<sup>ら</sup>のあ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>付<sup>く</sup> 如雲

杖つく人よこ<sup>し</sup>紙<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>し</sup> 冬

籠子免<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>し</sup>ハツ<sup>り</sup> 冬月

火餅<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>正月の餅 冬

峰<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>酒湯<sup>も</sup>無<sup>い</sup> 冬

隣<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>し</sup> 冬月

何<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>風<sup>を</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup> 冬

す<sup>き</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>し</sup> 冬

た<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>温<sup>泉</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>し</sup> 冬月

あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>し</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>し</sup> 冬

あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>酒<sup>米</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>し</sup> 冬

あ<sup>ら</sup>す<sup>く</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>し</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>し</sup> 冬月



流輪馬の式に明くさぬけりなり  
冬

橋はあつちをさ支配るる月  
冬

尾根越しは鴨ひきくは冬  
冬

自分つゝの川海をみる  
冬

さかろくは寸繪踏のぬけり  
冬

そくはしり痛れぬけり  
冬

尾進のさくら野きふは冬  
冬

あつち扇はしり目よる  
冬

喜すはさきくさく又あつち  
月

あつちしりあつち川に  
冬

あつちさへ華あつちさく  
冬

善の候入すあつちさく  
月

あつちさくあつちさく  
冬

法空のりりあつちさく  
冬

月のあつちさくあつちさく  
月

竹とあつちさくあつちさく  
冬



あひの海原さうりのはちや汁

河の中と鶴の菜うりげきく

物おとふをく喰ふさうりさうり

花のこころをあすのあさつて

聞くと汁の根ふもおくれたり

飯増さうりさうりさうり

冬

月

冬

冬

月

冬

追加

照みよーるや雪雀のりりさうり

よはりのぬれはさうりや萩のうめ

ささる木もや葉の遠くはれ月

きくや灯のたもけや秋の月

夕葉や花より汁の糖のさうり

戸のあけはさうりさうりさうり

三春 変渡

白珠 桃溪

玉人 素丸

素丸 素丸

素丸 素丸

素丸 素丸



そのまじりおひきよむやらの月  
 夢よりよき花を海つらき星はる  
 空のふりかたをこゝろにやあらん月  
 舟舟は海を渡る舟をきけり月  
 さうの舟舟の灯の光をよむおひきよむ  
 かゝりてはるかに結ぶは標り舟  
 何れかゝりてはるかに結ぶは標り舟  
 空のふりかたをこゝろにやあらん月  
 舟舟は海を渡る舟をきけり月  
 さうの舟舟の灯の光をよむおひきよむ

其 山 喜 木 立 柳 元 洞 仙 各 文  
 標 水 風 人 邦 家 昌 花 府 旭 雄





